

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

特別・企画展②

関東大震災100年

秋の夜長・関西文化の目

旧家で観月会(コンサート)

& 植松灯籠の目(錦影絵、上演)

夏の終わり、イベント総集編

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十九)」



展示・イベント案内

令和5年度 冬季企画展

旧植田家
G.L.I.M.E

昔のくらし ～火ひと日～

令和5年(2023) 12/9(土)～令和6年(2024) 3/11(月)

(開館時間) 9:00～17:00(入館は16:30まで) ※最終日は19時まで(入館も可)
 休館日: 火曜日、12/28(木)～1/4(木)、2/14(水)・26(月)
 (入館料) 一般250円、高校・大学生120円、中学生以下は無料

江戸～昭和までの「一日のくらし」と「火」の道具。

火を使う
火をおこす
火をともし
火で温める
火で暖まる
火を消す

火打ち金・石
ガスかまど
燗火桶
燗火桶
火のし
火ばち
石炭ストーブ

展示関連イベント

- 2/11(日・祝)体験講座「いろんな火おこしに挑戦!」
・13:30～15:00 ※要申込み、定員10名、100円(資料代)
- 2/12(月・振替)展示解説の日(学芸員の立ち話)
①11:00～、②14:00～ ※申込み不要、各30分ほど

土蔵1(常設)にも
昔の道具がたくさん!

八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅

(国定管理番号: NPO法人HCALC)
〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25 TEL: 072-992-5111 <http://kyu-uedakejyutaku.jp/>



展示のご案内

2023年12/9(土)～2024年3/11(月)

冬季企画展③「(旧植田家のにこる)昔のくらし～火ひと日～」

江戸時代から昭和まで「火」と「一日のくらし」に関する昔の道具を展示しています。

※休館日はP15をご覧ください

Contents

- 4 特別・企画展②
旧植田家の資料にみる関東大震災 100 年
- 6 夏の終わり、イベント総集編
「冷やしクラフトくらしZoo宅2023」
- 7 旧家で人形劇・紙芝居
うえまつ劇場
- 8 秋の夜長・関西文化の日
旧家で観月会(コンサート)&植松灯籠の日
～錦影絵プロジェクト、上演～
- 10 日日植田家住宅 第12日:幻燈師Lv.11
- 11 大阪教育大学教育コラボレーション演習2023
- 12 四会所だより(35)～新田四会所まちあるき2～
- 13 植ちょぴ(夏のお茶会、防災かまご飯、ほか)
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (四十九)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真



展示室入口にて
バックナンバー
配架中(一部)

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

錦影絵プロジェクト(練習風景)

今年度6月からスタートし、参加者10名らとともに全10回(+α)の練習を経て本格的な錦影絵演目の上演を目指すプロジェクト。11月18日「植松灯籠の日」(詳細は9頁)内にて上演を行なった。写真は主屋での練習の様子。



旧植田家の資料にみる

関東大震災100年

～地震・雷・火事・災害～

47枚の記録写真が伝える 関東大震災の爪跡。

※本展では 34 枚の写真パネルにして展示しました。



全47枚の写真が保存された写真帳



9/1(金) - 10/30(月)

←展示品目録



猛火に包まれる警視庁(千代田区)

特別企画展② 旧植田家の資料にみる

関東大震災100年

9月1日は、大正12年(1923)に発生した「関東大震災」の日を覚え、台風や大雨などの多い季節でもある事から、防災について考える日として「防災の日」(昭和35年制定)となっている。

旧植田家住宅は安中新田の会所として宝永元年(1704)の大和川付替え後に建てられ、現在は八尾市の指定文化財として継承されている。

その大和川付替えの前年、元禄16年(1703)に巨大な地震(元禄地震)が関東地方を襲い、さらには付替えから3年後の宝永4年(1707)にも東海道沖から南海道沖を震源域とする巨大地震(宝永地震)が発生している。関東大震災以降の(阪神・淡路大震災(平成7年)や東日本大震災(平成23年)などの震災も記憶に新しい。

数年の内に発生すると予測されている南海トラフ大地震、近年多発する豪雨・台風などによる風水害、未曾有の新型コロナウイルス感染症による災害、家庭での火災など。こうした災害から身を守るための防災や実際に起きた際の減災が求められている現在、特別・企画展では旧植田家の元住人からお借りした資料を中心に「関東大震災」の爪跡や当時の災害のリアルな状況を伝えた。



宮城前の大亀裂 (千代田区 皇居外苑)

地面が大きく割れ、地震の凄まじさを物語る。割れた地面の上には脱げた一足の履物(草履)が見える。



講演会の様子



濃尾地震(明治24)関連文書(支援金の礼状)



破壊されたる十二階及其附近 (台東区 浅草)

「浅草十二階」と呼ばれた名所「凌雲閣(りょううんかく)」。建物の8階部分から上部が折れて倒壊した。



十一時五十八分を指す 上野広小路の街時計

(台東区 上野)

上野広小路にあった街の時計の針が地震の発生した11時58分で止まっている。



宮城前の立退札

(千代田区 皇居外苑)

皇居は明治21年から昭和23年まで宮城(きゅうじょう)と称されていた。情報が途絶する中、尋ね人の札や安否確認のため焼け跡に避難先を書いた看板が立てられた。

【6・1 関東大震災について】

相模湾北西部を震源にマグニチュード7.9の大震災が関東広域を襲ったのは午前11時58分。昼時と重なったことから大規模な火災に発展した。

37万棟もの住家が被害を受け、死者・行方不明は約10万5千人に及ぶ。近年の大震災と比べても、被害規模と社会的な影響は極めて大きい。

【地震・雷・火事・災害】

関東大震災直後の様子を克明に伝える今回の34枚の写真は、植田茂治氏(明治・昭和)が学生で関東に居た当時に現地で撮影したもので、全47枚の写真がメモ書きとともにアルバムに保存されていた。また各新聞社の報道記録や、他の地震に関する記事も残されている。旧植田家住宅の収藏品からは明治の濃尾地震関係の文書、雷や火事などの災厄に関連した資料も展示した。

【関連講演会「八尾の防災」】

会期中の10月14日(土)には関連講演会「八尾の防災」を開催。八尾市危機管理課職員の方に「大切な命を守るために」災害を知る、災害に備える」をテーマにお話をいただいた。災害の脅威とそれに対する私たちの姿勢が問われたいへん有益な講演となった。(学芸員 安藤亮)

冷やしクラフトくらし Zoo宅2023

はじめました。

冷やし
旧家、

7/1(土)
~9/4(月)



井戸水で足水体験



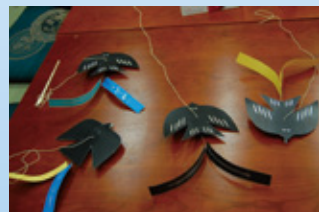
主屋の蚊帳

冷やし旧家、はじめました。
猛暑続きの今夏。今年はずでに6月頃から暑く、納涼企画「冷やし旧家、はじめました」を7月早々にスタートしました。
主屋は簾戸と蚊帳を設え、節電と抑熱を兼ねて照明の一部を落とすことでより旧家感が増し、庭では井戸水での足水体験と打ち水体験を行ないました。例年よりラムネの売れ行きも良く、9月の終了後もまだまだ暑さが続きました。

土蔵でクラフト(全2回)
今年は8月2日(水)と19日(土)に、土蔵でクラフトを実施。各日江戸のからくり玩具「紙つばめ」と「かわり屏風」を日替わりで参加者と一緒に作りました。
今回初の「紙つばめ」は作り方も簡単で、色塗りや尾羽の調整に時間をかけました。悪戦苦闘した「かわり屏風」は無事に全員完成まで辿り着き、喜びもひとしお。今年も自由研究に役立ちました。



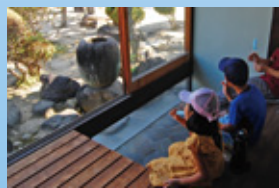
かわり屏風、完成!



色とりどりの紙つばめ

土蔵でクラフト

8/2(水)・19(土)



縁側で食べるアイス



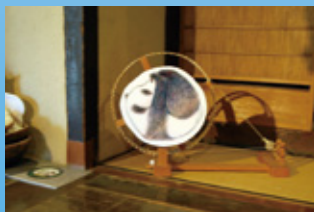
水鉄砲で打(撃)ち水!?

こども昔くらし体験

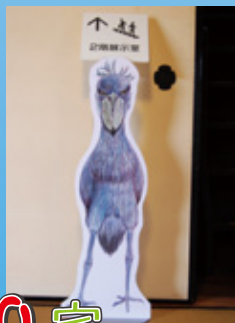
7/29(土) 夏編

こども昔くらし体験〜夏編〜
このイベントでは、夏の暑さを体感しながら昔(主に昭和時代)のくらしについて学び、様々な体験を行なっています。
現代の便利で快適なくらしとは違う昔の夏のくらしの中には、旧家の涼しさや蚊帳のわくわく感、井戸水の冷たさ、水鉄砲の楽しさ、板の間で昼寝する背徳感、縁側で食べるアイスの美味しさなどがたくさん詰まっています。

旧植田家 Zoo宅2023
夏休み期間の特別企画「旧植田家 Zoo宅」も今回で3回目を迎えました。旧家に潜む動物(イラストパネル)は毎年増え、オリジナル缶バッジも50種類を超えました。
糸車で回転するパンダやハシビロコウの案内板、座敷のライオン、シマウマ等が新たに追加され、いつもの動物たちと正門前ではキリンが首を長くし、お客さんが来るのを待っていました。



糸車で回転するパンダ



ハシビロコウの案内板

特別企画 旧植田家 Zoo宅

8/2(水)~9/4(月)

2023

お家でわくわく、みんなでいっしょに楽しもう！



うえまつ劇場



～旧家で人形劇と紙芝居～



「ヒロミ」さんの紙芝居

令和5年 10/15(日)

お昼2時～3時



「錦影絵」の和紙スクリーンに投影



茶室と仏間の特別な空間で鑑賞



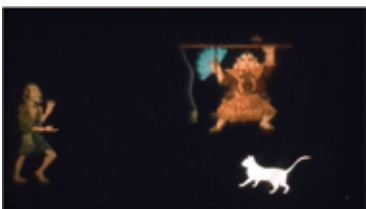
掛合いが楽しい「おひさま」の2人



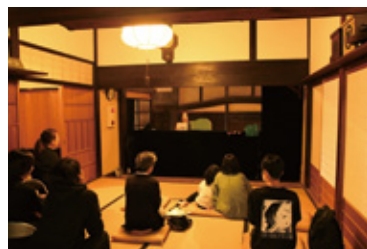
再びヒロミさんの言葉遊び紙芝居



「人形劇のかざぐるま」さん



6月に試演した錦影絵演目を上映



後半は土間を背景に作品を鑑賞

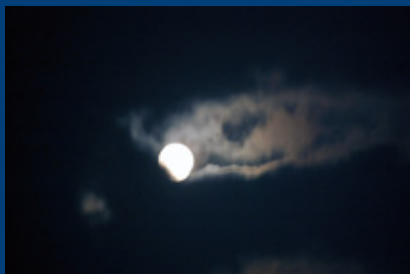
後半はダイドコ(居間)で、土間を背景にヒロミさんの言葉遊び紙芝居と「おひさま」のお二人による人形劇を観劇。それぞれ作品の中に一緒に入り込んで楽しむことができました。来年もぜひ参加したいと思います。

(スタッフ 兼 参加者)

仏間と茶室の空間を利用した特別な空間では、まずは「人形劇の風車」さんによる人形劇と「ヒロミ」さんの紙芝居を続けて鑑賞。どちらも旧家の雰囲気合いに合ったお話で、大人も子どもも興味津々。今回は特別に「錦影絵」(9頁参照)の宣伝も兼ねて、和紙スクリーンにプログラムの投影し、6月に試演した際の演目の映像も合間に上映しました。

今年で3回目の開催となる「うえまつ劇場」。これまでは「お庭で」人形劇や紙芝居を楽しむという趣旨で実施していましたが、上演しやすい室内に場所を移し、旧家で人形劇と紙芝居を楽しみました。

10/15 うえまつ劇場
～旧家で人形劇・紙芝居～



大阪教育大学 音楽表現コース3回生の学生によるカルテット

月にまつわる名曲を演奏。

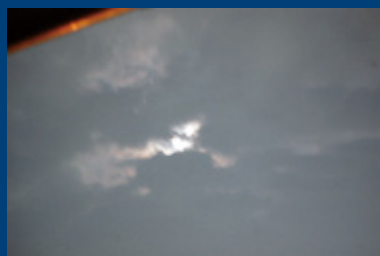
旧家で観月会

西文化の日

+

夜間開館

お月見コンサート



秋の夜長に中秋の名月をお月見団子とともに楽しむ「旧家で観月会」を9月30日(土)夜間に開催。団子の予約は直ぐ完売となった。当日は大阪教育大学「社会芸術教育協働活動」の一環として同大学の芸術表現専攻音楽表現コース3回生らによる「お月見コンサート」も企画された。座敷の各所に掛かる「月の掛軸」を正面に、お団子を味わい、そして雲がかかった夜空の月は、いつの間にか雲が晴れ、演奏が鳴りやむころに少しだけ姿を現した。これぞ中秋の名月。

旧家で観月会

+ お月見コンサート



月の掛軸(座敷1)

植松灯笼の日

十 錦影絵プロジェクト上演

11月18日(土)「関西文化の日」

初日の夜は、毎年恒例の「植松灯笼の日」を無料で開催。今年も灯りが灯った庭の灯笼10基と竹灯笼風の屋外灯、主屋二階窓の影絵と猫影絵が来館者の目を楽しませた。

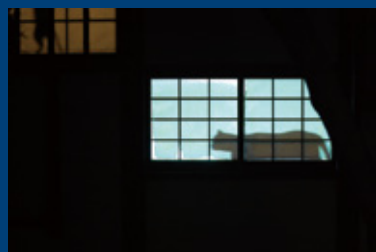
また、この日は6月から始まった「錦影絵プロジェクト」の上演が土間で行われた。肌寒い秋の暗闇に包まれた空間に40名以上の来場者が訪れ、公演は成功裡に幕を閉じた。公演終了後もしばし会場は錦影絵の話題で盛り上がり、夜の旧家に明るさが加わった。



庭の常夜灯に火を灯す



主屋二階窓の浮世絵影絵



動く「ネコカゲエ (猫影絵)」

植松灯笼の日

夜間開館

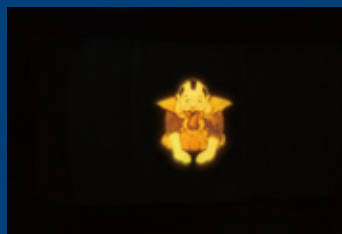
+

秋の夜長・関

錦影絵プロジェクト上演



つきぐみ 憑組公演「憑いてない日」



「どわんどわん…」
福助口上

錦影絵2演目を上演。

錦影絵と幻灯機の
解説を行なう錦
影繪池田組。



錦影絵プロジェクト
幻灯師と錦影繪池田組
の総勢14名で公演



ししぐみ 猪組公演「池田の猪買い」
ししか



雑記帳
日植田家住字
 - 日常から日用まで -

第12日：幻燈師Lv. II



練習場（講座室）のスクリーン

LEVEL UP!



いよいよ本番、錦影絵プロジェクト

今年6月からスタートした「錦影絵プロジェクト」（前号を参照）。この初めての試みに、事前の職員研修から始まり講演・試演を経て、10名の幻燈師見習いが集まりました。

全10回(+α)の練習を凝縮すると丸一日(24時間)にも満たない時間の中で、二つの演目に挑戦。前途洋々、興味津々、悪戦苦闘、行雲流水、高緊張感の5か月の様子(抜粋)を日記でお伝えしたいと思います。

【9月23日(土)】

折り返し地点の第6回練習。錦影絵池田組に加え、嘶方の三上氏と初合流。風呂(幻燈機)と幕の準備を先に済まし、メンバー全員で初の通し練習。池田氏の細かな動きのチェックが入る。「池田の猪買い」途中でタイムアップ。本番まであと60日。



【10月8日(日)】

錦影絵池田組のベテラン幻燈師2人が参加しての第7回練習。前回の続きから。2人の細かな指導がいきわたる。また本番の2演目に加えて「福助口上」を真美さん(錦影絵池田組)がしてくださることに。実演に感動。三つ目人道役の動きに池田氏大絶賛。

【10月21日(土)】

欠席が多く参加者7名+講師・嘶方。今回から練習時間を30分だけ延長する。憑組(憑つきぐみいてない日)と猪組(猪ししぐみ池田の猪買い)とに別れて練習。練習用の動画を何度も

確認しながら動きと台詞を覚える。



スクリーンを使っでの練習



動画で動きと台詞を確認

【11月5日(日)】

あつという間の第10回練習。都合によりメンバーの一人が急ぎよ本番に出られなくなる事態に!?ベテラン幻燈師の2人が代役を務めることとなった。また、これまでお手伝いをしてきていた兄弟の弟君が練習と本番にも加わった。



【11月12日(日)】

本番一週間前の最終練習(α)。全10回の練習でレベルアップした幻燈師10名とベテラン幻燈師たちが来週いよいよラスボス(本番)に挑む…。

コラボ演習の説明・演習はどうでしたか？

9/30(土)

塚崎

塚崎裕匡

旧植田家住宅でお手伝いする中で、歴史建築好きとして思ったことを綴ります。去る9月30日、大教大音楽表現コースの学生によるお月見コンサートが旧植田家住宅で開催されました。運営の補助をしていた私ですが、音楽(とお団子)を楽しみに地元の方々が集まる様子を見て、いいなあと思ったんです。

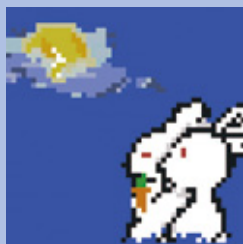
というのも、新田会所という場所は、もともと江戸時代に新しく開発された土地を管理する事務所として機能していました。今で言うところの農協や区役所のような施設だと想像できます。要は地域の人たちが集う場所だったのですね。そんな場所で行われたのが今回のコンサートでした。座敷では管弦楽器の音が響き、門前では旧知と思しき人々が団子を片手に談笑している……この建物は、目的は違えど江戸時代から令和に至るまで“会所”としてあり続けているのだと。なんとエモではありませんかと、私は思ったわけです。

近代の建築物は都市の再開発や老朽化、建て替えなどを理由に日本から姿を消しつつあります。これは時代の流れですからその善し悪しを語ることはできません。ですが……時を経た建物はただ古びるだけでなく、そこにいた人々の歴史や思い出を刻んでいます。残せるものなら残してほしいと思うのは私だけでしょうか。会所として建てられた旧植田家住宅がいつまでも人々の居場所であり続けられるように、私は願っています。

前楚

前楚ひかり

雲に隠れた月が顔を見せた瞬間に小さな歓声が上がりました。これは、そのときの光景を絵で表現したものです。お月見会を通して、季節を楽しむためには豊かな感性が必要であることを思い出しました。



19:00

小林

小林萌恵

コンサートの曲目は、ほぼ全て出演者で編曲しました。私は童謡を中心に担当。フルート、オーボエ、ヴィオラにファゴット、それぞれの楽器の特性を生かし、全員が活躍でき、曲の雰囲気合わせたサウンドにするために調性や楽器の音域を考えました。1ヵ月ほどかけて編曲が完成した時は達成感がすごかったです。演奏を聴いて下さった方、本当にありがとうございました。

四会所だより (35)

新田四会所まちあるき2

〜平野屋新田会所編〜

2023年11月25日(土)、大東市・平野屋新田会所市民サポーター会議主催の見学会「水が語る 大東の歴史」が開催されました。この見学会は『平野屋新田会所跡総合調査報告書』の刊行を記念して行われるシンポジウムの関連企画として生まれ、昨年八尾市の安中新田会所周辺を巡った四会所交流関連事業「新田四会所まちあるき」の第2弾としても位置づけられました。



東西の橋から望む恩智川の景色



古堤街道の道標



旧恩智川治いの段蔵



三反物の樋



樹齢300年? 「ご神木」とされる平野屋新田会所の大クスノキの幹

平野屋新田会所市民サポーター会議メンバーの案内で、20名以上の参加者の方々とまずは住道駅から恩智川と寝屋川を望み、古堤街道を通って旧吉田川跡・旧恩智川跡を辿りました。途中、水害対策からできたという段蔵を横目に、恩智川沿いをひたすら歩き、特徴的なまちの風景を堪能しました。平野屋新田跡から移設された樹齢300年といわれる大クスノキの幹がある泉公園で休憩した後、最終目的地の会所跡を目指し、横を流れる銭谷川の水路と江戸時代の樋門跡も案内してもらいました。新田会所まちあるき第3弾もぜひ開催したいです。

(安中新田会所跡旧植田家住宅 安藤亮)

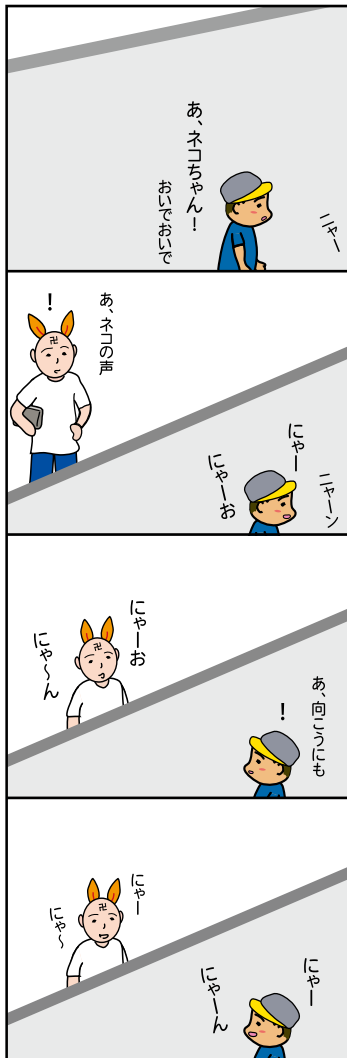
新田会所に未来はあるのか!?



大東市の史跡に指定された平野屋新田会所跡

マンジーくん

安富士 暁



「植田家住宅の・ちよっとした・トピックス」

植ちよぴ。(ックス)

①今年も開催「夏のお茶会」



|| 2023年8月20日(日)

コロナ禍でしばらく開催ができなかった「夏のお茶会」。2022年に3年ぶりに再開し、今年も8月20日(日)、地元八尾高校・茶道部の協力によって開催することができた。

この数年で部員の数や活動の場も減ってしまつた状況下、新しい部員に引継がれ、新鮮な心持でお茶会に臨んだ。昨年より部員も参加者も増えた旧植田家住宅での「夏のお茶会」。来年はさらに多くの人に、この特別な時間と空間を味わってほしいと願う。

②「防災訓練」と「かまどご飯炊き体験」



|| 2023年9月3日(日)

9月の「防災の日」にちなみ、毎年行なっている「防災！かまどご飯炊き体験」。今年は数年ぶり

に消防署員の方にも立ち会つていただき、避難訓練と消火訓練を行なった。参加者はどちらも真剣に取り組み、職員の方に火災に関する質問も多かった。その後の「かまどご飯炊き」では薪の組み方から学び、同時に防災の知識も身につけた。

③旧家で記念撮影〜七五三〜

|| 2023年11月3日(金)〜26日(日)

七五三の時期に合わせ、旧植田家住宅では毎年11月に記念撮影の機会を設けている。近隣の渋川神社へのお詣りの帰りに寄つて「七五三くじ」を引くこともできる。ちなみにかくじは、7か5か3が出るという数字があるというが、今年は見事一人だけその数字を出すことができた。

④いとほんのポン菓子

旧植田家住宅がある八尾市植松町の隣、龍華町出身の橘トシ子さん(当時19歳)は、戦中・戦後にポン菓子製造機を作り、子どもたちを飢えから救い、復員した人々にポン菓子売りの職を与えた。最近ひよんなことからこの事を知り、当地域との不思議な縁を感じた。『バケモンの涙』(改題)で出版された『いとほんのポン菓子』(歌川たいじ、光文社)の物語(実話)をぜひお読み下さう。



落穂拾い

―今東光の董風―(四十九)

文・伊東健

関東大震災から百年が経過するのにあわせて、とても興味深い映画が立て続けに公開されていました。

ひとつは「カメラを持った男たち―関東大震災を撮る―」(井上実監督)というドキュメンタリー、もう一つは実際に起きた事件をもとに制作された「福田村事件」(森達也監督)です。

作品で挿入される当時の映像には、震災が発生した翌日九月二日も含まれていて、この日に芥川龍之介、川端康成と今東光の三人も被災現場を歩いていたことはそれぞれが証言しています。特に、東光が最晩年になつてから、芥川の孫娘・麻実子さんと対談している時の発言は、次世代に震災の記憶を語り継ぐという意味でも印象的に読むことができます。

(前略) ちよつと吉原の池から西のほうを

見ますと、浅草の十二階が―僕は今、それを書きつつあって、病気で中断してますけども―ポッキと折れてね。凌雲閣っていうのが折れて、惨たんたる姿が見えていますね。なんせ九月の二日ですから。それで自警団はすぐにできまして、軍が、朝鮮人がこれをやつたって流言を流したのね。

芥川 ああ、ありましたね。

今 それで、龍之介さんが、朝鮮人を殺したり、迫害するのはけしからんっていうって激昂しながら喋っていくんですよ。そう思わんか、東光と。徳川家康が江戸へ入つた時以来、日本人は情報機関がバツタリ途絶えると、野蠻になる。徳川家康の時代とちつとも変わりやしない。朝鮮人が九月一日に地震があるなんていうことを予期してるわけない―、井戸へ毒を投げるなんて準備してるはずもないしね。また、もしそれを知らなかったとすれば、陸軍の憲兵隊の手落ちでこそあって、実に愚劣千万な情報だ。こんなことを流して、政府のほうは流言飛語をやめると。自分が流しといて、…江戸っ子なんて馬鹿だから、夢中なんて殺しまくるでしょう。その時に深川の高橋まで行つたのかしらな。その橋の欄干に三つぐらい生首が置いてあるんだよ。(中略)

今 とにかく人間わざじやないんだ。で、川端君にも「どうだ、これを凝視する、なめる、みつめるっていうのが、われわれ作家魂でなくちゃならん」て、おれはいい加減なことをいいながらね。芥川さんも「驚くべき情けない光景だ。これは日本人の恥だぞ」っていつて大変…。

その時僕は、芥川龍之介というのは、非常に立派な人だと思つたもんだ。すぐに朝鮮人の問題を批判して、ひどいデマを軍が流して、社会主義者や朝鮮人を迫害したということの後年、日本が世界中から非難されるだろうって、僕らにおつしやっていましたよ。なるほど、そうだろうし、正しくものを判断し、冷静な頭を持った偉い方だと思つた(後略)

〔芥川龍之介あれこれ思ふ孫娘より〕芥川麻実子著
所収 対談「祖父の肉声を記させて下さい」 語り人 〃
今東光(昭和五十二年七月五日サンケイ出版発行より)

関東大震災映像デジタルアーカイブでは、さまざまな映像を確認することができます。東光が言及していて、絶筆作品となる「十二階崩壊」(中央公論社刊行)に登場する浅草凌雲閣が折れた様子も見ることができ、百年前の事実を忘れずに、明日の備えにしたいものです。

*引用文中、今日の観点からは不適切な言葉が含まれていますが、発言者が故人であることを鑑み、そのまま引用しています。

*関東大震災映像デジタルアーカイブ <https://kantodaishinsai.filmarchives.jp/>

旧植田家住宅のご案内

【2024年1月～4月】

これからの展示・イベント

毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5組限定)」
 // 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催!

展示

2024年

◎ 3月11日(月)

企画展③「昔のくらし～火ひと日～」

★2/11(祝・日) 講座「いろんな火おこしに挑戦!」

★2/12(振休・月) 展示解説の日

◎ 3月15日(金)～4月22日(月)

通常展「大和川付替えと植田家の収蔵品」

展示、イベント等のお知らせは
 ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>



イベント

(詳しくはお問い合わせください)

1月 21日(日) こどものためのお茶会

★1/5(金)～21(日) 旧家で記念撮影～新年・成人の日～

★1/5(金)～31(水) ギャラリー展示2023(公募展)

★1/7(日)～3/11(月) 旧家で暖家(あったか)支援

2月 17日(土) 旧家で芸能・伝統文化「落語の会」

★2/23(祝・金)～3/24(日) 旧家で記念撮影～ひな祭り～

3月 3日(日) 石臼珈琲体験

16日(土) 旧大和川をあるく「ぶらり玉串川」

17日(日) いまむかし遊び体験(むかし遊びの日)

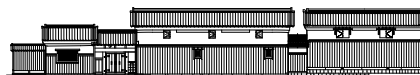
4月 未定

※予定は変更する場合があります。



休館日カレンダー

■ = 休館日



2024/ 1 January

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2 February

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3 March

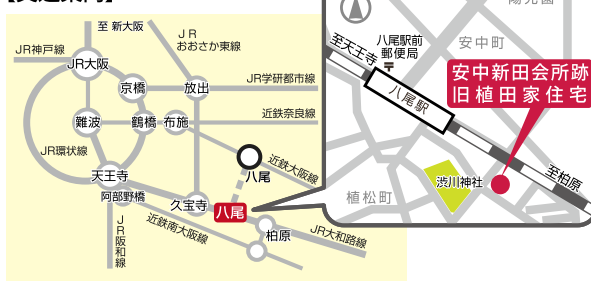
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

※4月の休館日は
未定です。

今年を暖冬だといわれて油断していましたが、今週に入り、急に冬が本気を出してきたかの様に冷え込んできました。▼今週末は毎年恒例の「おもちゃの会」を開催します。この記事を読み返す頃にはすでに新年を迎え、おもちゃの記憶などは遠い昔のことのように感じていると思います。コロナ禍で忘年会をしなくなると3年が経過。会を持たずともしっかりと年を忘れていくことに毎年気がきます。

#編集日記(12・21)

【交通案内】



◇ JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇ 近鉄大阪線「近鉄八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

※当施設には駐車場はありません。車でのご来館はご遠慮ください。

●開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料：一般250円(団体20人以上で120円)
 高校・大学生120円(団体60円)

※中学生以下、身体障害者手帳等の所持者および介助者は無料

●お問い合わせ・見学のご相談(ご予約など)

〒581-0084 大阪府八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX: 072-992-5311

E-mail: info@kyu-uedakejutaku.jp

本当の幸せって？ 本当の豊かさとは？

モノや情報があふれ、それを大量に消費する社会。
人々の価値観は変わり続け、本当に大切なものは・・・

そのような中、人々の考え方は「利己から利他へ」「古き良きものを見つめ直す」のように、
人とのつながり、過去と未来のつながり、社会とのつながりを求めるよう
変化してきているのではないのでしょうか？

私たち、株式会社シーズクリエイトは情報を提供する立場にあります。
その情報を活かし、地域のヒト・コト・モノとネットワークを築き、
そのつなぎ役を担うことで新たなコミュニティを創造し、
地域経済を活性化させたいと思っています。

